

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900904		
法人名	有限会社 沙蔵		
事業所名	グループホーム花音(Ⅱ)		
所在地	熊本県八代郡氷川町宮原字浜殿591番地		
自己評価作成日	平成24年7月1日	評価結果市町村受理日	平成24年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成24年8月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・管理者の住まいはホームの2階にあり、緊急時にも速やかな対応がとれスタッフは夜間も安心してケアができます。・太陽光発電とオール電化、ホーム2棟共にスプリンクラーを設置し、安心、安全に配慮しています。・花音では毎朝欠かさず皆さんと歌の合唱や口腔体操を行い、また、花音独自の音楽セラピーを楽しんでいます。・親しみ感のある「花音の理念」は利用者さんやスタッフ、家族や地域に浸透し、今後、福祉の拠点を目指します。・訪問看護ステーションによる医療連携体制を充実させ、必要時は24時間看護師との連絡がとれ安心して頂けます。・天気の良い日には、デイやホームの利用者様との交流や、菜園での野菜の収穫も楽しみのひとつです。・カルシウムの豊富な活性水素水「還元粋」を飲用して頂くと共に、口腔ケアや清潔保持には酸性水を使用しています。・「いきいきサロン」のお世話をさせて頂き、地域の皆さんとは、すっかり顔馴染みとなっています。・ふれあいボランティアや楽器の演奏、踊りの慰問など、地域の皆さんによる生きがい作りのお手伝いを頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は今年1月に1ユニットから2ユニットにされ、認知症デイサービスを設立、太陽光発電設備も整って自然環境に対しても心掛けられておられます。道路に面し向かい側には三神宮があり静かな環境です。事業所の拡張に伴い職員教育に努力されています。また、ユニットごとに活動性ある利用者、静かに過ごしたい利用者等に配慮され利用者、家族等の意向に添いながら生活の場が決められています。事業所は生き生きサロンを率先し企画されたり地域行事等へ積極的に参加、協力され地域交流がなされています。ケアプラン、介護計画作成に伴い事業所独自のアセスメント票を作成予定で、一人ひとりの細かな個別ケア提供ができることを期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1ユニットで6年目を迎え、平成24年1月に2ユニットになり理念の見直しをスタッフと一緒にいき、毎日欠かさずにミーティングを行うことで、理念の共有を行っています。	平成24年1月に2ユニットとなり、スタッフと一緒に理念の一部を見直し「ちよつと大きくて穏やかな、家族の和を大切にします。」が実践されています。ミーティングでは、理念を基に利用者の生活等について話し合われています。玄関にも理念の掲示がされています。	全職員が理念について理解し共有されることで実践に繋がれることを望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花音で毎月の「いきいきサロン」を企画し、参加することで、スタッフもすっかり地域の顔馴染みとなっています。消防団や商工会などからの協力依頼にも意欲的に参加し、七夕飾りや地蔵祭り等地域の方々と協力しながら地域交流を深めています。	花音が主体となり回覧板等で連絡され、行政、包括支援センター、民生員、スタッフ、利用者と共に生き生きサロン企画を公民館で話し合いが行われています。生き生きサロンを通し自然な形で地域との繋がりを大切にされています。	生き生きサロンや地域行事等へ参加されることでより一層地域との繋がりを深められる事を望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の独居老人の見守りや、介護医療の相談を受けることも多く、その都度、介護・医療関係者、訪問看護ステーションなどの協力を得ています。今年は事業拡大したことで介護・医療関連の方々と交流も多く、ネットワークの強化を図っていきたく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小さな力も継続することで形がみえてくるもので、一貫した理念を追求し地域の協力者に感謝すると共に、私たちの事業所にできる力を少しでも社会に還元できるように実践の積み重ねを大切にしています。	2ヶ月に1回定期的に開催されています。運営推進メンバーから台風時の一時預かりや神行行列時は事業所開放の要望等が出され対応されています。	2ヶ月に1回の会議です。事業所からの報告だけでなく、事業所運営に対しても、色々な意見を出して頂ける工夫も必要かと考えられます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事あるごとに市町村への報告・連絡・相談を行っており、貴重な助言を頂きながら質の維持、向上のため努力しています。	苦情相談、重度化した場合の施設紹介、介護保険更新等で相談されています。また、週1回程度、行政からも入所等の相談があり行政と事業所の連携が取られています。	これからも行政との連携継続に期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束を行わない」「無理強いをしない」方針です。本人の意志で行動できる促しの技術や心配りを指導しています。関わり方や促しの心構え、技術を理解してもらえるように、今後も指導をしていきます。	利用者と共に散歩をしたり、分かり易い声かけを行ったり、利用者の意向に添ったケア提供ができるよう心掛けられています。また、利用者への係り方についての勉強会や研修参加も行なわれています。事業所の出入り口は夜間は施錠されますが日中は開放されています。	勉強会や研修等の参加によりスタッフ全員が身体拘束について学ばれることを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症ケアの視点や関わり方、言葉のかけ方は暖かい気持ちがあれば、自ずと理解できること、また、そのヒントをスタッフが共有できるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者様が、その方が私たちのホームの生活を気にいって頂けることで、その責任を果たせるよう関わっています。「ここが楽しか」という声が聴かれると嬉しいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院時には、利用者様の健康状態を第1に優先し、多方面での助言を頂きながら、その利用者様より適した今後の支援ができるように、双方が納得できるよう話し合いを行って対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誠実に日々の業務やケアを行っていく職場環境作りを目指しています。その上での意見や苦情であれば真摯に受け止め事業所全体の成長に繋げていこうという気持ちです。	面会時に意見や要望等をその都度聞かれるようにされています。家族会はないようですが大きな行事の時は家族の出席もあり意見や要望を聞かれるようにされています。家族から栄養管理についての要望があり、管理栄養士と相談する等の対応がされています。	利用者や家族等が意見や要望を表せる工夫を望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会計士や労務士の指導の元に、疑問等があれば確かな返答ができるよう、直接、スタッフが会計士や労務士に質問してもらうようにしています。ひとりひとりが認知症ケアの専門家として成長していけるよう経営者とスタッフの信頼関係を大切にしていこう努めています。	ユニット別に月1回のカンファレンスの中で意見や提案等を聞かれています。また、疑問等については、直接職員が会計士や労務士へ相談できる仕組みになっています。また、研修希望者には研修参加ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの健康状態や事情を考慮し、出来る限り無理のない体勢がとれるように、必要時は管理者が責任をもって対応して、利用者様のケアに支障がないようにしています。併設のデイサービスの状況をみながら、今後職員の増員を検討中です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの理解が深まり、管理業務も徐々に任せられる人材を育てるために、昨年1名が熊本県認知症介護実践者研修を受講しています。今後もよりよいケアができるように互いに学びあっていきたいと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業拡大をしたことを期に、福祉・医療関係者との交流が活発になり、今後、地域における連携を充実していく必要性を感じ、様々な助言を頂くことでサービスの質の向上を図っています。ケアの質の向上を図るよう研修や交流、連携などを充実させていきたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に成り代わり信頼関係を築くには時間がかかるものの、6年間のグループホームで培ってきた認知症ケアの経験を基に、まずは、安心して頂けるように笑顔と、認知症ケアの基本でもある『ゆっくりと穏やかに』の精神で関わっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	皆さん、利用初日までは本当に心配だと思います。次の日になって電話で様子を伝えると、とても安心されます。早い方では、次の日に面会があっても支障なくホームで過ごされます。とにかく居心地の良い、明るいホームの環境を創っていくよう努力し、御家族が安心し介護負担軽減できるように関わります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ等の判断でホームへの入所を勧められ、実際に利用者様にお会いして「グループホームケアに適しておられるか」また「御家族の思いは」を関係者の助言も頂きながら、十分に検討して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアがスムーズに行えるために、時にデイ、隣のホームのスタッフや利用者様同士の関係者を活かしながら、ホームの生活に馴染んで頂けるケアを花音では実践しており、利用者様の役割や力を発揮して頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の健康状態を心配し、体重が減らないように沢山食事を与えてほしい要望があり、食事時に面会されることが多い御家族様に、管理栄養士の元、カロリーの目安を理解して頂くとともに、「動こうとされない利用者様と一緒に歩いて頂けませんか」と、運動を促すことで、食欲増進されるよう関わりを依頼しました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所が地域の皆様の憩いの場であること、いつも三神宮さんに見守られていること、日々の会話の中に盛り込み、近所の方に会いたくないと言われていた方も外で過ごしている間に知人に会うと笑顔になられます。時間はかかるも少しずつ地元環境に馴染まれるような関わりのおこなっています。	家族の絆を大切にされています。月1回の面会や月1回自宅へ帰る利用者、帰宅願望の強い利用者に対しては家族と相談しながら馴染まれるよう対応されています。また、短時間で墓参り行く事で徐々にときれがちな家族関係の修復に努められています。	家族や地域等の絆を大切にされ馴染み関係継続を望みます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切に、仲間作りを行っています。スタッフにはできない同年代同士の会話に笑顔が輝き、スタッフにできなくて、御家族や利用者さん同士なら出来るケアがあります。いろんな方々の協力を得て地域ぐるみの支援ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ひとりひとりを、ひとつひとつを大切にしていきたいと思います。サービス利用が終了しても、いまでも葉書をだしたり、立ち寄って頂ける関係があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの観察力が、新たなニーズの発見につながったり、ケアの視点が以前に比べ広がってきています。「ひとりひとりの暮らし方、ひとりひとりの幸せ探し、応援します」が理念のひとつです。個別の思いにしっかりと向き合っていきます。	以前はセンター方式で思いや意向の把握をされていましたが、現在は生活歴や利用者、家族等から思いや意向の把握に努められています。また、日常生活の中から一人ひとり新たな思いをくみ取られています。	2ユニットとなり利用者、家族等の暮らし方や思い、意向の把握に努められ、一人ひとりが事業所で豊かで穏やかな生活ができることを望みます。また、花音独自のアセスメント表作成についても意欲的であり期待いたします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や、御家族様に近況をお伝えすると共に、以前の生活や様子などの情報を頂き、十分話し合う時間を共有しています。管理者だけでなく、スタッフが家族とのコミュニケーションをとれ、情報の共有が図れるよう促していきたいと思ます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の思いを理解し受容できることで、信頼関係をより深めていきたいと思ます。ただ身の回りのお世話にするだけでなく、本人の思いはどこにあるのか、その心情を観るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要求、家族の思い、以前の担当ケアマネ、各介護医療の専門家、介護スタッフの話を十分聴きながらより具体的なプラン作りを目指し、半年を基本にプランの見直しを行い、新たなニーズや変更の必要があった場合も各関係者の声を参考にしより適切な支援が出来るよう計画の見直しを図っています。	花音Ⅰは管理者兼ケアマネが花音Ⅱは計画作成担当者がケアプラン、介護計画書を作成されています。モニタリングは月1回各担当者が行いカンファレンスにより修正、変更を行い計画に反映させスタッフ全員で共有されています。また、半年に1回ケアプラン全体の見直しがなされています。	一人ひとりの現状に即したケア提供の継続を望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況、健康状態が把握できるような記録の活用を行い、心身の変化がみられる場合は、きちんとした申し送り、状況報告を徹底して速やかな対応ができるよう努力します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が御本人との関わりを大切に頂く観点から、基本家族による病院受診をお願いしているも、対応できない場合や緊急時は責任をもってホームで受診しています。必要性の高い課題が発生した場合は、家族や主治医、他関係者との連携により、速やかに課題解決できるよう努力いたします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお世話事や行事に参加することで、地域の輪が広がると共に支えられる関係作りを目指し、区長、民生委員とは常日頃から頻回の交流があり、地域のボランティアや消防団、また最近では先生方との交流や面会も多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の施設、主治医とは、必要時は情報交換を行い、訪問看護ステーションの助言も参考しながら、スムーズに医療が受けられるように対応しています。又、随時家族や主治医との話し合いや電話で本人に対する支援について情報の共有を図っています。	基本的には家族付き添いを基本とされていますが、困難な場合は事業所でも対応されています。家族付き添い時は家族等へ状態やケア内容について書面及び口答で情報提供が行われています。また、医療連携で訪問看護との連携もされています。	受診時書面や口答で情報提供がなされていますが、主治医や看護師のコメント欄を作られ記載して頂く方法も良いかと考えられます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションによる医療連携体制を整え、必要時は24時間いつでも連絡がとれ対応しています。訪問看護ステーションには、主治医と直接会って、仕組みについての説明を行うと共に、利用者への支援について話をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃から交流のある看護師長に利用者様の様子を聞き、主治医の見解を頂くと共に、利用者様の今後の適切なサービス支援について意見を頂けるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合を考慮して、入所前の施設、主治医、訪問看護ステーション、協力薬局、家族、関係者と細かく連絡を取りながら、情報の交換を行っています。	重度化した場合は主治医や訪問看護師と相談し決定されています。看護師が常駐していないので重度化した利用者や終末期を看ることは難しいようです。	勉強会や研修参加によりレベルアップし重度化や終末期が看れる事業所となれたら利用者、家族等が安心して利用できるのではないのでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションによる急変時の初期対応や医療についてもその都度、指導や助言を頂いています。救急法の訓練を予定しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	花音で災害があった場合は、事業所前に在住している消防団が緊急時における担当者となっており、速やかな応援が得られるようになっています。	年2回避難訓練が行われています。避難場所も決められ連絡網での連絡表の整備もされています。また、三神宮、消防の方や民生委員の方にも協力体制ができています。	災害時の職員への連絡方法として一斉メールであれば時間短縮になるのではないのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々、不適切と思われる言葉掛けに気づき、個人的に指導することがあります。また、外部から意見や忠告を頂くこともあり、反省材料とさせて頂いています。	職員の不適切な声かけに対しその都度指導がなされている。また、月1回のカンファレンスでの勉強会や研修参加によりプライバシーの確保に対する認識を高められています。	昼夜問わず尊厳とプライバシー確保の継続を望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が出せずに、歌のような発声で気持ちを表現される利用者様については、他利用者のストレスとなっているも、決して辞めさせる介護ではなく、環境を変え、自由に表現して頂けるように関わっています。又、答えを早く出さないようにしながら、答えやすいように二者択一で言葉かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務先行＝認知症ケアができるか反比例すると思われれます。理解を促し指導しています。自分に合わせようとしている傾向がまだみられる人もおり、利用者主体とは何かを理解できるよう促していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出しての理容が可能な方は、利用者の協力を得て整髪して頂くと共に気分転換して頂いています。外出しての理容が困難な方は、訪問理容にホームに来て頂き対応しています。又、必要な情報を提供して安全に配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりが茶碗拭きをしていると自ら手伝いをしようとする方も多く、自然に自分の意思で行われることを尊重しています。また、事業所敷地内の菜園で育てた野菜の収穫を楽しみにされ、献立に盛り込んでいます。	事業所の畑で取れた野菜を収穫し日頃の食事作りを利用者さんと共に楽しんでいます。また、行事食や外食、誕生会等が計画され外出される機会ももうけられています。1週間のメニューがユニットごとに立てられています。	利用者にとって食事が一番楽しい時間です。利用者が持っている能力を活用され調理や後片付けの継続を望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じ管理栄養士の指導を受け、主食の量やバランスのとれたおかずの提供を心がけると共に、BMIにも留意しています。摂取カロリーや体重、BMIのデータから必要に応じ利用者様の栄養管理について医師の指導を仰ぎます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事前のうがいと食後のブラッシングを行っています。義歯は毎夜酸性水に浸し、週1回、ポリドントを使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2名の方は立位困難で、その他の方は全員トイレで排泄して頂けるよう支援しています。身体の痛みと立位できないことで、トイレでの排泄が困難となられた方については、心身の安定のため、ベッド上でオムツ交換を行うことで、心身のダメージを最小限にしています。	排泄チェック表を基に一人ひとりに声かけやトイレ誘導がなされています。昼間は布パンツに移行できた利用者もおられるようです。また、尿意がない利用者に対しては時間誘導されています。	プライバシーを確保しながら一人ひとりの排泄支援継続を望みます。声かけや誘導する事で快適に過ごされコスト削減ができるとうれしいです。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	敷地内に菜園を作り、食卓には野菜を多く出すようにしています。また、水分はこまめに促し、必要に応じ乳製品の使用や薬による排泄コントロールで対応しています。水分は無理強いしないような関わりの配慮を行いながら、こまめな促しを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、隔日の入浴支援しています。気乗りされない時は無理強いしないで、しばらく時間をおいて再度声かけ対応しています。入浴拒否のある方については、喜ばれる声かけを行うことで気持ちよく入浴して頂き、また、恐怖や不安を感じられる方には、二人介助にて安心して頂けるよう対応しています。	入浴は1日ごとを基本にされています。入浴拒否の利用者に対しては声かけや時間を変更されるなどされ対応されています。また、季節湯も楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動が少なく自室で休むことが多い方については、役割や楽しみをもって頂くと共に、時間を守って規則正しく生活できるよう声かけ対応しています。意思をうまく表現できない方については、体調観察をして無理がないように仮眠を促し十分休息をとって頂くようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の調整については、医師に相談し指導を頂くことを前提にしています。薬の準備は形で憶えず、薬情や薬辞典を確認し必要に応じて、いつでも対応できる薬局に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家政を自由にして頂く方、しっかり話を傾聴することで安心される方、友達作りやお世話が好きな方、役割や楽しみに集中することで気持ちが充実される方など様々ですが、何より心のふれあい、関わりを大切にすることが一番の生きがい支援となっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の咲く時期に合わせて、ドライブを企画して楽しんで頂いています。今年は桜の花見、皐月園に出かけています。年間計画として楽しみが増え実施できるようデイとホームで検討していきます。	天気が良い日はデイサービスの利用者との交流や事業所の畑まで散歩されています。車椅子の利用者も散歩ができるよう配慮される予定です。	全員の利用者が1日1回散歩ができる機会があれば、外気浴ができ気分転換ができるのではないのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	神社の参拝時に賽銭を自分で行って頂けるよう援助しています。買い物に行くことで満足されますが、お菓子などの管理は十分に話をして納得されるよう対応していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があると「家族からではないか」と楽しみにされる方もいます。不安から、幾度も電話の要求をされる方には、スタッフが家族に成り代わり安心できるよう会話し対応することもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や折り紙、習字などで季節感を演出しています。塗り絵などを含め利用者様の手による作品をできるだけ作るようにしています。少しずつ外回りの環境整備を充実させていきたいと考えています。	共用空間が広くテーブルが並び、利用者の状態に応じてソファベッドも用意され過ごし易い空間となっています。また、季節の習字、油絵等が掲示されています。トイレや浴室にはノレンがさがりプライバシー保護にも努められています。	ソファベッドに臥床されている利用者が玄関から見える位置になっています。パーテーション等でプライバシー確保を行う上でも配慮されると良いでしょう。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花音Ⅱのリビングではテレビやレクリエーションが楽しめる空間でありながらも、皆さんの居るところで、安心して仮眠がとれるよう2台のソファベッドを配置しています。花音ⅠとⅡを繋ぐ通路に双方の利用者の方が集い、そよ風を感じながらおしゃべりされるのがとても楽しい様子です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳に和布団で休まれる方、仏壇を持ち込まれる方、家族の写真を飾っている方などがいらっしやいます。趣味の三味線を持ってきて頂き、スタッフと一緒に演奏を楽しむこともあります。	利用者や家族等の希望により私物の持込は自由となっています。居室はフローリングですが畳で過ごしたい利用者には畳を敷かれるなどされています。利用者一人ひとりに合わせた居室の空間ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家政を手伝う方がやり方が分からない場合には、声かけすることで目的を達成されるように援助しています。移動介助等を行う際も御本人の心構えができるように関わる時間を大切に促すようにスタッフの指導をおこなっています。		